

## 私たちの未来 Ⅲ：種子から掛け橋へ

2017年7月21日（金）から7月24日（月）まで、本会“未来の種まき”隊 34名の会員がロサンゼルスのカロンデレットセンターに集まりました。

私たちのゴール：

- 相互関係を深めること
- 熱意と関心事のトピックに関して、“心から対話”をすること。
- 臨時修道会総会の情報、特に“会の組織”を注意深く考慮すること。
- コミュニケーションを維持し、私達の関係を育む方法を計画し決意すること。

私たちは誰なのか、何を一緒にしたのか、どのように影響を与えたのか、何になろうとしているのか、私達は修道会の仲間として、そしてシスターとしてそれらを分かち合います。

### 私たちは、誰なのか。

私達一団（コホート）は、2013年当時62歳以下のメンバーと今の志願者と修練者の51名で構成されています。以前はペルーとオールバニーで会合し、今回は3度目の“種まき”集会をもちました。内34名には会えませんでした。互いに連絡し合い、関わりを大事にしています。文化、年齢、賜物、経験など豊富な多様性を象徴している私たちは同じ“母国言語”で話せませんでした。私達の中で働かれる聖霊によってイメージや価値や行動は共々理解できました。私たちが分かち合う一つの現実、長年生きてきたカリスマと使命に達することです。本会に対する偉大な愛と未来に向けて、私達は積極的に2019修道会総会の準備に参加することが不可欠であると信じています。

### 私たちは、何をしたのか。

祈り、親睦、食事、電子コミュニケーション、対話などあらゆる機会を通して相互関係を深めました。特に母国語の違い、文化、相対的な見方を共有できない時、思いやりをもって関わりました。

共に生活したこの二日間（土・日）、私たちは心の状態と家屋を共有しました。土曜日、“勇気ある対話”をしました。私たちは独自の話題を考え、くじを引き、小グループに分かれて話し合いました。“判断する”のではなく、互いに尊敬して聴き、“注意を向ける”という事を思い出しました。3つのグループで以下の話題について考察し、討議しました。

(1) 進行中の修道生活養成に関して、どのように/どこで時間を使うのかを選びます。

この対話の結果、私達が何をしても活力と喜びを求めようと努めることでした。私達はどこにいても私たちが何者なのかと証しする勇気ある女性にならなければなりません。私達は人々に仕え、また、人々への奉仕のため献身していく必要があります。未来に向かってテクノロジーを駆使し、相互のサポートを必要とします。

(2) 全ての地域のメンバーで構成された新しい使徒職の夢は、霊的發展を提供し、どんな所であっても呼ばれている所へ、親愛なる隣人に会うため近づいていきます。

手始めは、この問いから生じます。「神はどんな招きや恵みを私たちに与えようとしていますか。」私たちは様々な地域からチームということを予想しています。霊的認識を高めるため親愛なる隣人へ向かうチームです。この使命は私達の共同生活と多様性の共有に根差していて、呼ばれた所へチームは出向きます。表裏の目標は、私たち自身異文化であり、自分自身であることです。証しとなる方法として私達の使命、カリスマ、霊性を創造的にもたらしめます。この考え方に関する討議は、臨時総会の決議を実地に探り調べるのを促進します。“個人的及び共同体的な変容の機会”のために“全修道会の中で関わりを深め...”ます。

(3) 共に生きてきたことを通してレンズのような働きをする国際性と文化的多様性を受け入れるとしたら、私達は会としてどのような点で違ってくるでしょうか。

「私達は今どのように神に呼ばれていますか」という問いをグループで熟考しました。各々の文化とその価値を認識します。この問いはミクロとマクロ・レベルで探求されました。

ミクロ・レベルでは、私たちはどのように他者と関わっていますか。好奇心はオープンですか。私たちは支配する特権と偏見を見なければなりません。これは内的な作業をするように要求しますが、正直で難しい対話に感動を覚えます。私達は、敢えて苦闘することを選択しなければなりません。ミクロの攻撃性を承認し、話し合い、ことばや

ジェスチャーに気を付けていかなければなりません。真に多文化になるため、私たちは自分自身を変えなければなりません。相互に時間を過ごす機会を作る必要があります。完全に浸漬するのが最善ですが、不可能な場合どうすればいいですか。シンボルや芸術で祈ること、本を読むこと、本会の精神遺産を省察するメディアを使うことなど提案されました。最終的に、これは言語の壁を越えて心の分かち合いに繋がります。私達は他の文化について殆ど何もわかっていなかったこと、そして快適な地から動き続けることは困難であるということも認識しました。

マクロ・レベルでは、多様な文化の重要性と現実を反映するのに私達の組織形態と構造をどのように変えますか。あらゆる意見をテーブルの周りで述べる必要があります。私たちの国際性は統治形態の中心的なものであり、統治に関する最新の話題や決定を報告する必要があります。この状態を知ることは、私たちの対話に新しいアイデアをもたらす思考を拓けることができます。私たちは相互の信頼関係によって生きるように呼ばれています。歴史の至る所で、私たちに内在するカリスマを通して、政治的及び社会的葛藤を克服してきました。

日曜日 私たちは臨時総会情報を祈りそれについてよく考え話し合いました。私達はこれらの洞察で活力を体験しました。

総会では私たちの関係を深め、痛みを感じながら交わりを選ぶ一方、聖ヨゼフの姉妹として一緒に関わるようにと招かれています。私達のコホートは、互いに聴き、学び合い、相互の信頼を成長させ、又奉獻生活者として生きています。私達一人ではできません。私達は空飛ぶガチョウのようです。助け合いながら同行し、親愛なる隣人の方へいつも移動し、今のニーズと未来のニーズに向かいます。これは又、相互の違いを受け入れ、全てを抱擁する際の個人の変容の時です。自分自身の意見をはっきり述べ、経験、智慧、望み、欲求を大きな修道会に伝えなければなりません。私たちは恵み豊かな神の存在を信じます。種々の賜物を持っている私たちは、ミッションのために使わなければなりません。他の人の望みや夢を聞いた後、私たちは未来に向かって新たな楽天主義を感じました。私たちは識別を続け、イノベーション・アニメーション委員会の活動に信頼し、コミットします。何よりもまず私たちの中で働かれる聖霊に信頼します。

### それはどのようにして行動を引き起こすのか：私たちは誰になろうとしているのか

多くの人々は集会ごとにグループが成長するのを感じます。相互の善意に対して信頼が深まります。グループとして自分のアイデンティティを明確にして更に理解して

認め、一つにする愛のミッションを続けるのだと思います。修道会にとって最も重要な“報告書”は単なる文書ではなく、未来に向かって生きる術の説明であることを提案します。

この観点から考えると“種子”という名前とイメージは、もはや私達のことを表していません。私たちが誰であるかという新たな感覚を反映する新しい名前とイメージ“掛け橋”を用います。それは、修道会の中でそして世界のために私達がしていること全てにおいて私たちの多様性を反映している真の“未来の橋”です。

私達は2年に一度、集会を持つことの重要性を感じます。もしできれば2019総会の前、2018年に集会を持ちたいと思います。多くの方は小グループでのズームの集いに参加し続けることを選びました。私達は又グーグル・グループにアクセスして、将来私たちの間で電子コミュニケーションを可能にします。

閉会の祈りは“神の恵みの集会”でした。コホートとして私達全てをサポートし、過去及び来る総会ですばらしい共同の奉仕をして下さるリーダーシップに心から感謝いたします。最後になりましたが、私達はお互いの関係に留まり違いや困難が生じた場合克服することを決意します。聖ヨゼフの姉妹として呼ばれた私達は、一つになって積極的に包括的愛を生きるため修道会の対話とプロセスに引き続き従事します。